

登録コード	UAC50500	開講年度	2026			
授業題目	英語学研究				担当教員	伊藤 尽
					副担当	SPREADBURY ASH LEIGH
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・6時限	
				授業形態	講義	
信大コンピテンシー 該当						
(1)授業の達成目標		授業で得られる「学位授与の方針」			【授業の達成目標】	
2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					シェイクスピアのテキストについて、その文献学的な資料価値、扱い方、研究方法についての基礎的なノウハウを修得できるようになる	
【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。					芝居のセリフを自ら発することで、韻律、発音、抑揚、また相手とのコミュニケーション能力を高めることができるようになる	
【人間文化学】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。					シェイクスピアテキストに精通することで、人間と社会、歴史の中の立ち位置などについて深い知見を得て、実社会に応用することができるようになる。	
(2)授業の概要		William Shakespeareの4大悲劇の一つであるMacbethの研究初步について学び、各自の学びの成果を発表する演習形式の授業。 現代英語・初期近代英語の作品を読み、先行研究から多くを学び、それを要約し、批判するゼミナール形式の基礎を身につける。シェイクスピア作品をはじめとするイギリスのJacobeanの時代の英語学的・文化的・文献学的知識を身につけ、初期近代英語で表現される考え方、感じ方を理解できるようになる。英語でシェイクスピアのblank verseの韻律で台詞が、基礎レベルで言えるようになる。				
(3)授業計画		第1回：オリエンテーション：使用テキストの紹介：発表グループ・順番の決定 第2回：Introduction: Macbethのテキストと背景をOxford 版に基づき解説。 以下の回では、学生はIntroduction, Text , Annotationsを読み、台詞の英語の特徴、人物描写、台詞の意図、文化的背景などに焦点を当てながら、各自が持ち時間15分以内でpresentationを行う。 第3回：Macbeth 1幕1場-1幕2場の英語の解説と解釈の発表 第4回：Macbeth 1幕3場の英語の解説と解釈の発表 第5回：Macbeth 1幕4場の英語の解説と解釈の発表 第6回：Macbeth 1幕5場の英語の解説と解釈の発表 第7回：Macbeth 1幕6場-1幕7場の英語の解説と解釈の発表 第8回：Macbeth 2幕1場の英語の解説と解釈の発表 第9回：Macbeth 2幕2場の英語の解説と解釈の発表 第10回：Macbeth 2幕3場の英語の解説と解釈の発表 第11回：Macbeth 2幕4場の英語の解説と解釈の発表 第12回：Macbeth 3幕1場の英語の解説と解釈の発表 第13回：Macbeth 3幕2場の英語の解説と解釈の発表 第14回：Macbeth 3幕3場の英語の解説と解釈の発表 第15回：総評と復習				
(4)成績評価の方法		授業内での発表と発言(質疑応答)・発表準備を90%とし、期末レポート10%とします。				
(5)成績評価の基準		授業内の発表ではテキストの内容を把握し、人前に内容をまとめて発表でき、質疑応答に参加する場合に「基準にある」と評価します。 テキストの内容を正確に理解した上で、自分なりの視点から考察できることを「やや上にある」と評価する。 テキストの内容や授業中の議論を踏まえ、自身の考察を参考文献などの具体例とともに提示できる時「かなり上にある」と評価する。 授業で扱った内容と関連する参考文献を調査し、独自の視点からその内容の補足や批評を提示できる時「卓越している」と評価する。 期末レポートは、授業の内容を踏まえてレポートの形式に則った書式で執筆できることを「基準にある」と評価する。 独自の視点をもち、根拠となる例を明示しながら論じることができるとき「やや上にある」と評価する。 先行研究を踏まえた上で、それに自分の意見を根拠を明示しながら加えることができることを「かなり上にある」と評価する。 先行研究を踏まえた上で、それらに客観的な批評を加え、さらに根拠を明示しながら自分の意見によってそれらを補うことができることを「卓越している」と評価する。				
(6)事前事後学習の内容		事前学習：set textを熟読/精読し、内容を理解した上で、要約・批評の原稿を作り、presentation の練習を十分に行う 事前準備中の疑問はe-Alps 上の会議スレッドで、受講者全員で議論して共有する 事後学習：他者の発表を聴き、質疑応答を踏まえて、受講者間で議論を行い、次の発表のための準備を行う				
(7)履修上の注意		英語史IおよびIIを受講していることが望ましいですが、履修していなくても受講できます。但し、授業内での発表を行う前に、必ず指導教員と綿密な打合せをすることが求められます。 履修前にセットテキストを入手して、既に読んでおくことが望ましい。				

(7)履修上の注意	資料室にある資料、図書館にある資料、論文を読んで、set textの内容を理解した上で、疑問などeALPSに挙げて、議論に参加する 本授業は、英語学基幹演習Iと連動しています。そのため、開講時間について変更する可能性がありますので、履修希望者は事前に相談してください。
(8)質問,相談への対応	e-Alps上に質問スレッドを立ち上げるので、そこに質問を記入して、受講生同士での議論を活発に行ってください。 教員はその流れを見ながら、アドバイスや答を記載します。 スレッドに記載できない相談などは、メールにて対応して、改めてアポイントメントを取って資料室などで面談を行います。
【教科書】	William Shakespeare. Macbeth. Ed. A. R. Braunmuller. Updated ed. The New Cambridge Shakespeare. Cambridge University Press, 2008.
【参考書】	William Shakespeare. Macbeth. Ed. Sandra Clark and Pamela Mason. 3rd Series. The Arden Shakespeare. Bloomsbury, 2015. William Shakespeare. The New Oxford Shakespeare. The Complete Works. Modern Critical Edition. Oxford University Press, 2017.